

弥富市事務事業評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	33	1	事務事業名	給食サービス事業		細事務事業名	給食サービス事業		公的関与	5	シート作成日	平成30年6月15日			
	課名	介護高齢課		グループ	高齢福祉		担当課長名	藤井清和		シート作成者名	田畑由美子					
	事業区分	◎ 1 ソフト事業		○ 3 整備事業		○ 5 施設の管理運営		事業運営方法	□ 1 直営		☑ 3 全部委託					
		○ 2 施設の建設		○ 4 経常的事務事業					□ 2 一部委託		□ 4 補助等					
	総合計画	政策目標	3 健やかでやさしいやとみ				実施計画	事業の開始・終了								
		施策項目	高齢者支援の充実				◎ 1 該当	年度 ~ 平成 年度 ☑ 期間設定なし								
		主要施策	高齢者福祉サービス等の提供				○ 2 非該当									
	個別計画	介護保険事業計画・高齢者福祉計画												根拠法令等	弥富市給食サービス事業実施要綱	
	事業の目的	対象(誰を・何を)				意図(どういう状態にしたいのか)										
		(1)高齢者のみの世帯 (2)重度の障害者のみの世帯 (3)高齢者と重度の障害者のみの世帯				①配食サービス:自宅に食事(昼食用弁当)を届けることにより、在宅生活の支援を行います。 また、昼食用弁当を手渡しすることにより安否確認にもつなげます。 ②チケットサービス:市総合福祉センター内・十四山総合福祉センター内にある喫茶室において利用できるチケットを交付することにより、外出の機会を増やし、高齢者等のひきこもり防止に役立てます。										
事業の内容	○利用者は、配食又はチケットによる利用のどちらかを選択し、サービスを受けます。(※調理、配達等は、民間事業者へ委託) ①配食サービス:月曜から日曜日(週7日)のうち、7回まで昼食用弁当を配食し、食事代679円のうち300円(平成28年10月以降は400円)を利用者が毎回配達業者に手渡します。なお、残りの経費379円(平成28年10月以降は279円)は市が負担します。 (※配食サービスについては、24年度より委託事業所数を2社から3社へ、また食事内容についても普通食以外の介護食に対応できる事業所を1社追加、並びに利用回数(日数)についても週5日から週7日へとサービスの内容を拡充。) ②チケットサービス:市総合福祉センター内・十四山総合福祉センター内(平成29年度から追加)にある喫茶室において利用できるチケットを交付(1年分)します。 なお、1日に利用できる枚数は1枚(200円分)で、ひと月あたりでは5枚×200円(1,000円分)が利用の限度です。															
成果指標	①	指標名	配食サービス利用者数				②	指標名	チケットサービス利用者数							
		指標設定の考え方	安否確認に役立てる観点から、本事業の指標設定を配食サービスの年度末における利用者(登録者)数としました。					指標設定の考え方	高齢者等の引きこもり防止に役立てる観点から、本事業の指標設定をチケットサービスの年度末における利用者数としました。							
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 ※ 年度	目標平成 30 年度	平成 28 年度		平成 29 年度	平成 ※ 年度	目標平成 30 年度						
		実績	265	実績	196	目標 ※		目標	320	実績	274	実績	424	目標 ※	目標	380
		目標	310	目標	315				目標	360	目標	370				
DO	予算費目	会 計	一般会計		款	3	民生費	項	3	老人福祉費	目	1	老人福祉総務費			
	直接事業費	平成 28 年度決算額		平成 29 年度決算額		平成 30 年度予算額										
		国・県支出金	千円	千円	千円											
		地方債	千円	千円	千円											
		その他特定財源	千円	千円	千円											
		一般財源	16,476 千円	11,690 千円	12,908 千円											
	計(A)	16,476 千円	11,690 千円	12,908 千円												
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.100 人	0.100 人	0.100 人											
		臨時職員工数・経費	690 千円	690 千円	690 千円											
		臨時職員工数・経費	0.100 人	160 千円	0.100 人	160 千円										
全体事業費(A+B)	17,326 千円	12,540 千円	13,758 千円													

CHECK	チェック項目					一次評価		一次評価の説明		二次評価	
	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は少ない。				☐ はい	☒ いいえ	ひとり暮らし高齢者等に定期的に食事を届けることにより、対象高齢者の孤立を防ぎ、地域の見守り意識を向上させることを目的とする事業のため必要です。	☐ はい	☒ いいえ	
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性がない。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。				☐ はい	☒ いいえ		☒ はい	☐ いいえ	
		4. 住民ニーズの低下がみられる。または、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。				☐ はい	☒ いいえ	孤立しがちな高齢者等の安否確認と栄養補給を兼ねた本事業の必要性は、ますます高まるものと考えます。	☐ はい	☒ いいえ	
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っている。				☐ 目標に比べて劣っている	給食チケット利用者数が大幅に増加し、配食サービス利用者が減りましたが、外に出て利用するチケットを希望する高齢者が増えたことは良いことだと考えます。	☐ 目標に比べて劣っている			
2. 目標設定に対して成果があまり上がっていない。				☐ あまり上がっていない	☐ あまり上がっていない						
3. 目標設定に対して概ね目標を達成している。				☐ 概ね達成している	☒ 概ね達成している						
4. 目標設定に対して十分に目標を達成している。				☒ 十分達成している	☐ 十分達成している						
効率性	1. 効果に比べてコストが高い。				☐ はい	☒ いいえ	在宅高齢者等には必要なサービスと考えますが、利用者の生活状況の変化が著しいため業者との連絡方法を考える必要が有ると思われます。	☐ はい	☒ いいえ		
	2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ		
	3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。				☒ はい	☐ いいえ		☒ はい	☐ いいえ		
	4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ		
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	4	3	A	3	4	3	3	A
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☒ 拡大・充実 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	配食サービスの弁当が老人食のため、元気な高齢者の方は給食チケットの利用に変更され配食サービスの利用者数が減ってしまいました。今後は、少しでも安く食事を提供できないか検討する必要があります。					二次評価での指摘事項(部長の総括意見)				
	課題解決のための改善計画	近隣市町村の事業を参考にして、臨機応変に対応でき低価格に食事提供できるよう事業者と調整する必要があります。					配食サービスについては、安否確認の方法としては有効だとは考えるが、経費負担は大きいです。新聞配達や郵便配達などでの確認など他の方法も検討していくべきだと思います。 チケットサービスについては、現在進めている、ふれあいサロンとの関連付けも考え、単なる喫茶店利用の補助にならないように考えるべきだと思います。 平成29年4月から十四山総合福祉センターでチケットサービスの利用ができるようになり、利用者が増加しましたが、反面給食サービスの弁当利用者が減少となりましたので、給食サービスの魅力を高める必要があります。				
	備考										